

谷川岳・巻機山2004年4月

～連日 1,200mのダウンヒル～

酒井 利直

谷川岳と巻機山は4月頃の山スキーの好対象である。幸い4月10日(土)、11日(日)の週末は好天候が見込まれたので、1日目に谷川岳をこなし、その夜は巻機山の麓の清水に泊まり、翌日巻機山に登る計画を立てた。巻機山から清水峠を越えて谷川岳に向かうスキーツアーは通常山中一泊の健脚向きの好ルートであるが、それは将来の課題として今回は2つの山を別々に登ることにした。同行者は例により会社の同僚宮本君である。

4月10日(土)快晴

午前6時30分西東京の酒井の自宅をマイカーで出る。春休み明けの週末のためか、関越自動車道は空いており午前9時に土合に着く。直ぐにロープウェイ乗り口の駐車場で身支度を整え、ロープウェイに乗る。ロープウェイ終点からはリフトに乗り天神尾根に上がった。



午前9時50分である。写真はロープウェイ終点から見た谷川岳頂上である。マーカーのラインが滑降ラインである。すなわち谷川岳頂上から西黒沢の上部を滑り、天狗の休み場と呼ばれる露岩の上部でヒツゴー沢側に入り、熊穴沢避難小屋のあるコルに回りこむものである。

さて午前10時ロープウェイ終点からスキーを履き天神尾

根を熊穴沢ノ頭に向けて滑る。天神尾根には谷川岳に向かう人が多い。半分位の人はスキーを持っている。スキーの種類はアルペン、テレマーク、ショートスキーほぼ同数であろう。スノーボーダーもいる。なお我々は翌日の巻機山下部の藪も考えショートスキーである。熊穴沢ノ頭の手間にフィックスロープが残っている6,7mの岩場があるが問題なく通過。

熊穴沢避難小屋は雪に埋もれて確認できず。ここから登りの傾斜が増すが、アイゼンを出すまでもなくツボ足で登る。午前11時55分谷川岳(トマの耳 1,963m)到着。快晴の頂上には50人位の登山者がいる。私にとって積雪期の谷川岳登頂は20年振りであるが、あの時はこれ程まで登山者は多くなかったと思う。雪山もすっかりブームだ。頂上で昼飯を食

っているとスキーを履いた連中が次々と飛び出していく。ここは万が一左側（マチガ沢側）に飛び出してしまうと大変なことになるのだが、皆上手なものだ。

さて午後 0 時 25 分我々も滑降を開始する。我々は 50m 程下ったところでスキーを履く。



頂上直下は西黒沢の最上部斜度 30 度程度一枚バーンである。（左の写真）

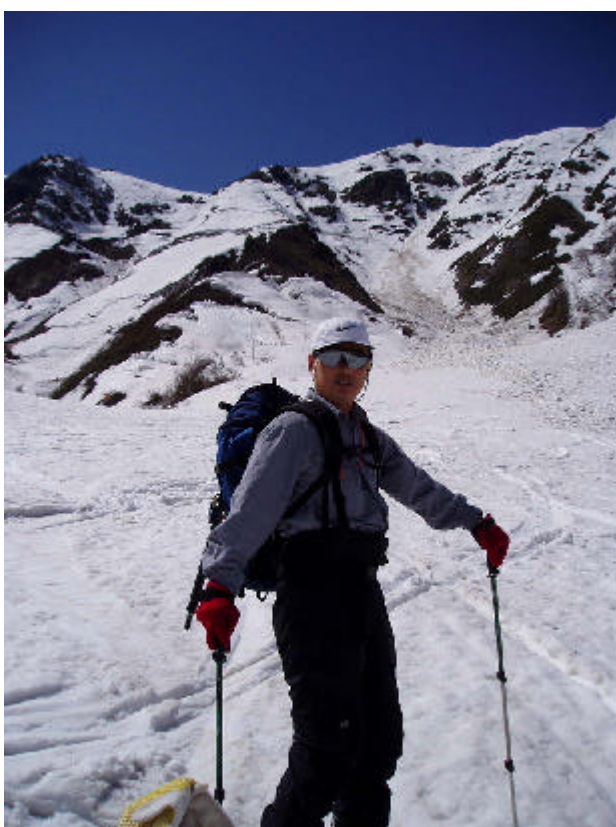
ここをショートターンで滑り、写真右に見える天狗の休み場にトラバースする。天狗の休み場からは尾根の西側（ヒツゴ沢側）には入るが、シュルンドが口を空けており注意を要するところだ。また余り滑りすぎると避難小屋のあるコルに回りこみにくくなるのでこれも要注意だ。見通しが良いこともあり我々は

最短コースでコルに着く。コルからは西黒沢を滑るのだが、右岸の斜面に沿ってトラバース気味に滑るのが良いとガイドブックにあるのでそれに従う。沢心はデブリで滑りにくそ

うだ。傾斜は部分的に 40 度位あるだろうか？ 雪質は水を含み重たくなっているので、ターンを繰り返すとザザッという音とともに雪の塊が谷に落ちていく。滑降を開始して 40 分で核心部を滑り終える。とにかく太腿に負担が大きい。特にショートスキーは負担が大きいのだろうか？

左の写真は西黒沢の下から頂上方面を見たものだが、枝沢から幾つか小雪崩が出ている。西黒沢の滑降時は雪崩に要注意だ。また頂上から真直ぐに西黒沢を滑るエクストリームスキーヤー向けのルートもあると聞くが今日は誰も滑っていなかった。4 月では雪が少な過ぎるのかもしれない。

緩傾斜になってしばらく滑ると田代沢の一般滑降コースと合流する。



午後 1 時 25 分ロープウェイ駅の駐車場着。1,200m を 1 時間で下る中々のダウンヒルだった。

この日は車で清水へ移動。巻機山登山口の偵察などをして時間を潰し、夜は民宿で清酒「八

海山」を呑む。ところで翌朝宿帳を見ると我々より少し年配の宿泊者が何名も職業欄に「山スキー」と書いている。冗談にしろ山スキーも盛んになったものだ。

4月11日(日)高曇り時々晴れ

午前6時40分 駐車場から登山開始。20台程度駐車可能な駐車場は丁度我々の車で一杯になる。井戸尾根に向かう雪上のトレースは、最初は傾斜の緩い疎林帯を辿っている。

疎林帯の中を数組のパーティが前後しながら登っていく。アルペンスキーを担いだ人、テレマーカー、スノーボーダーなどスタイルも様々である。谷川岳と比べて巻機ではどういう訳かショートスキーの人を見かけない。それにしても巻機山の人気も大変なものである。

夏に登ったことのある宮本君の話では、トレースは夏道よりやや西側に付いているという



ことだった。やがて「井戸ノ壁」と呼ばれる樹木が茂った急傾斜帯に差し掛かる。

下山時の滑降ルートを考えながら登るがこの灌木の茂り方ではスキーは難しそうだ。

午前8時20分頃「井戸ノ壁」の上5合目に着く。「井戸ノ壁」で一汗かいたので景色を見ながら一休み。ここからは米子沢の様子が良く見えるが、雪が少なく水流がところどころでいて、通しの滑降はまったく無理である。南の方を見るとピラミダルの太源太山と白い朝日岳が見える。(左の写真)

ここから上部は傾斜も落ち、白樺の疎林がこの辺りは左手つまり夏道が通る尾根の西

続くので今回初めてシールで登ることにする。側の浅い窪地が滑降に良いなどと考えながら登っていくとニセ巻機を望む樹木のほとんどない広大な台地に出た。ニセ巻機への登り道は二通りある。ほぼ夏道沿いに直登していくルートと米子沢側の斜面をトラバース気味に登りルートである。直登ルートは所々雪が剥けているが、時間が稼げそうなので我々はここを登ることにする。(右の写真は台地からみるニセ巻機)

午前10時急斜面に差し掛かったので一旦スキーを担ぐ。30分程割引沢側の急斜面を登り稜線に出た。ここからは米子沢を見ながらシール



で登行する。午前 11 時少し前ニセ巻機 (1,861m) に到着。巻機山 (1,967m) が米子沢源流部を挟んでゆったりとした山容で広がっている。

ところで我々の当初の計画は当然巻機山を往復するものであったが、2 日にわたるスキー登



山の疲れがそろそろ顕著になっていた。ここから巻機山を往復すると 1 時間半位かかりそうだ。

下山して東京までドライブし、また明日から会社に行く訳だから余り無理はできない。巻機山の穏やかな姿を見ていると「無理はしなくていいよ。また今度おいでよ。」と言っているような気がして

きた。(左の写真は巻機山)

そこで今回はニセ巻機を持って最高到達点として昼飯後スキー滑降を開始する。

下山開始は 11 時半過ぎ。ニセ巻機の頂上からしばらく登ってきた斜面を下る。適当な傾斜でまことに快適だ。登りにスキーを担いだ急斜面は別のルートつまり米子沢側を通るルートを取る。約 15 分程でニセ巻機下の広大な台地の上まで下ってしまう。ここまでが巻機山スキー滑降のハイライトだ。この後 5 合目付近までは白樺の灌木帯を往路確認してきた尾根の西側の窪地を滑っていく。5 合目を過ると灌木が煩くなって来る。「井戸ノ壁」である。スキーの長さ位程の雪面を求めては横滑りで下って行ったが壁の途中でついにスキーを脱いでツポ足で降りることにする。積雪量にもよるが、ここはスキーを担いでしまう方が早くて安全そうだ。

井戸ノ壁を割引沢よりに降り、藪が薄くなったところで又スキーを履く。割引沢の下の平坦なところに建っている山小屋 (非営利) を目標に滑っていくと簡単に駐車場に出た。

下山時刻は午後 1 時。約 1 時間半の滑降だった。

帰路越後湯沢で日帰り温泉「駒子の湯」に浸かり中年山スキーヤーとしては 2 日間のそれなりに充実した疲れを癒して 5 時頃西東京に帰宅した。

以上